

コロナ禍において、大阪整肢学院ではどのように対応をしてきたか

田中博之¹ 白沢由美子²

大阪整肢学院 院長¹ 看護長²

整肢学院ではコロナのクラスターが2度起こりました。

一度めは、2022年1/18に職員がPCR(+)となったことがきっかけで、2/5までに職員30名、入所児52名が感染しました。このときは濃厚接触者が勤務しないと業務の継続が不可能でしたので、濃厚接触者は毎朝抗原検査をして陰性なら出勤してもらいました。さらに入所児の日常生活の援助については、セラピストにも病棟の応援をお願いし、事務職や用務員にも入所児の生活を支える業務を依頼しました。加えて中津病院から学院の勤務経験のある看護師を1名派遣していたので、かろうじて業務の継続ができました。

二度めは4/5に職員がPCR(+)となったことがきっかけで、4/25までに職員5名、入所児22名が感染しました。このときは職員の発生が少なかったことで、特段の措置はなくても業務の継続は可能でした。

この2度のクラスターにおいて職員が入院するケースはありませんでした。入所児につきましても重症化した児はおりませんが、高熱によりてんかん発作を起こし他院に入院した児が2名（1月クラスター時：1名、4月クラスター時：1名）、基礎疾患に懸念があり念のために入院をお願いした児が3名（1月クラスター時：1名、4月クラスター時：2名）でした。1月のクラスターでは、発熱のために飲食ができなくなる児がおり、入院をお願いしましたが、病床逼迫の影響で入院できず、整肢学院で治療しました。

学院は小児施設で、コロナにかかっても発熱程度の症状ですんでいます。1月のクラスター時は37.4℃以下11名、37.5-37.9℃6名、38℃台16名、39℃以上19名で、4月のクラスターでは37.4℃以下4名、37.5-37.9℃3名、38℃台10名、39℃以上5名でした。1月4月に2回感染した児は5名です。

入所児の発熱状況

	PCR+	≤37.4℃	37.5～37.9℃	38.0～38.9℃	39.0℃≤
1月のクラスター	52	11	6	16	19
4月のクラスター	22	4	3	10	5